



# 大隅から日本と世界を語る

7月5日、市役所で「外国人市民による弁論大会 in Kanoya・Tanuizu」が開催されました。これは、鹿屋市及び垂水市に在住・通勤・通学などする外国人が弁士になり、異文化の理解や多文化共生の輪を広げることなどを目的に、大隅半島で初めて行われたもの。8つの国・地域の14人の弁士が、大隅で感じたことなどを日本語で発表し、各賞と大隅地域の企業の協賛による副賞を受賞しました。今回は、最優秀賞と優秀賞に輝いた3人の弁論を紹介します。(一部要約。全参加者の全文は市ホームページに掲載) 市地域活力推進課(3階) ☎0994311147

## 最優秀賞

「鹿屋は田舎じゃないが、田舎です」



キム ゴンドン 建東さん  
韓国・鹿屋体育大学  
留学生

こんにちは、私はキムゴンドンと申します。今日の日本語スピーチ大会に参加することができて光栄です。今日私が準備したスピーチのタイトルは「鹿屋は田舎ではないが、田舎です」。少し変なタイトルでしょうか？でも私はこのタイトルが私が鹿屋で感じたことをもつともよく表現したタイトルだと思いました。私がここに来てからもう3か月ぐらいの時間が過ぎました。今まで本当に様々な人に会いました。会った人のほとんどは私に「鹿屋は田舎なので本当に不便でしょうか？」といつも私に聞きました。私はその言葉に同意

できませんでした。私は鹿屋に何がなくて不便かな？と考えてみました。まずここには私が住む家があり、具合が悪い時は行ける病院があり、お腹が空いた時にはたくさんのおいしい食堂があり、友達と遊びたい時は、カフェ、飲み屋、カラオケ、ボウリング場、卓球する所として、大きなパチンコもたくさんあります。特に私はサッカーが好きで今は鹿屋高校の体育館という立派な空間で社会人のサッカークラブで活動中です。また、私は韓国語に興味がある方に韓国語を教えていて私としては、とても感謝しているバイトもあるところです。このようなことから、鹿屋は決して田舎ではないと私は自信を持って言いたいです。しかし、鹿屋はやはり、田舎の部分もあります。ここは海と山などの大自然があつて、田舎だからできる自然ライフを楽しむことができます。地域の方は私たちにいつも手作りのおいしい食べ物をくださった



▲一緒に活動するサッカークラブのメンバー (鹿屋高校体育館にて)

## 優秀賞 「まっしぐらから」



カク ショウ ヨウ 郭 述柔さん  
台湾・鹿屋体育大学  
留学生

留 学する前に鹿屋体育大に野球部があることを知っていましたが、マネージャーになれるとは思わなかったです。ですが、監督は私のことを聞き、優しくぜひ入ってくださいと言ってくれました。最初の3か月は大変でした。私はいつも選手たちと同じ練習に行ったり、部費を払ったり、ユニホームを買ったりしているのに、紹介されませんでした。その時は本当に悲しくて、やめたかったです。ところが、やはりみんなのことが大好きです。みんなの笑顔をもっと見たいです。みんなを応援してあげたいです。マネージャーを続けられるのは、この気持ちのおかげです。

公式試合としては、私にとつて最後の試合。ずっと、勝てると思っていましたが、敗れてしまいました。その瞬間、写真を撮っていた私は泣き出してしまいました。一塁のキャプテンも、



▲鹿屋体育大学野球部の選手との出会いは、一生の宝物

次のバッテリーも。最後の日みんな泣いていました。「カクちゃん、ありがとうね。日本に来てくれて」キャプテンは相変わらず優しく言ってくれました。その日の光景、みんなの笑顔と涙、私は一生忘れません。

これから、私たちはそれぞれ自分の人生の道で歩き続けま。別れを繰り返すことは人生の過程です。人生はまるでバスのようなのだと思っっています。このバス停で誰か降りて、次のバス停に着いたら、また誰か乗ってくれます。なので、ただ悲しくても立ち止まったりはいけません。進もう。彼らに会ったのは奇跡だと私はずっと思っています。私のことを忘れないでください。この1年間一緒に過ごした日々、私も忘れません。また、会おう。その時、自分の夢が叶うかどうか、教えてくださいませんか？

## 優秀賞 「第二の故郷」



ユエ スーフェン 淑芬さん  
中国・製造販売業

私 と同年代のほとんどの中国人はまさに日本のアニメを楽しみながら大人になったと思います。しかし、アニメの中に描いた日本は想像の世界で留まり、いつか自分の目で確かめてみたくなりました。

2007年の12月に鹿屋市に来て、3年間の実習生活が始まりました。鹿屋に来た時、日本語がほとんどしゃべれなく、不安もあつたけど、環境に恵まれて、社長と奥さんは自分のことを娘のように優しく可愛がってくれました。日本語能力試験1級にも合格し、とても充実した幸せな3年間でした。

2012年の9月、私は留学生として鹿屋島の大地へ戻りました。でも、留学生として一番重要な任務は勉強することです。数えきれない専門用語が耳を襲撃し、理解するのに大変苦労しました。単位を落とさないため、毎日の授業がまるで自分

との戦いでした。それでも、大學生つて幸せだと思います。勉強する以外に、自由時間がたっぷりあるからです。時には友達と遊びに出掛けて、大自然を満喫することもありました。卒業した後、私は鹿屋に戻り、実習生の時と同じ会社に入社しました。実習生たちの面倒を見ながら、会社経営に携わり、少しずつではありますが、成長した自分がいました。周りの日本人は「鹿屋は日本で一番田舎なところですよ」とおっしゃいますけど、田舎だからいいです。大自然に囲まれ、親切な人たちが居て、おいしいお料理もお腹一杯食べられて：こんな幸せな町は最高だと思います。だから、鹿屋は自分にとって「第二の故郷」です。これから、貿易を通じて、少しでも鹿屋市の発展に貢献し、中日間の架け橋のような存在になりたいです。



▲貿易に携わって、日本と中国の架け橋を目指す

INFORMATION 他にも11人の参加者がそれぞれの視点で大隅・日本・世界を語り、各賞を受賞しました。氏名・出身地とあわせて紹介します。

- ◎鹿屋市長賞  
チャールズ クルーズ Charlene Cruz さん (フィリピン・高校生)
- ◎垂水市長賞  
パストレロ ジューン マリー オリエゲ Pastolero Dune Marie Ollegue さん (フィリピン・介護福祉士)
- ◎鹿屋警察署長賞  
グエン ティ ゴック ジャウ Nguyen Thi Ngoc Giau さん (ベトナム・技能実習生)
- ◎鹿屋市国際交流協会賞  
ガミト ジョアナ マリー Gamit Joana Marie さん (フィリピン・技能実習生)



- ◎奨励賞 (7人)  
ヴィオレーヌ ルセル ボンジョバーニ Violaine Roussel Bongiovanni さん (フランス・ALT)  
ジェンキンス リッキー ジェイムズ Jenkins Ricky James さん (アメリカ・ALT)  
サントス ローセラ レガスピ Santos Louella Legaspi さん (フィリピン・通訳)  
アハメド ファリド Ahamed Farid さん (パキスタン・自動車販売業)  
シェパード サマンサ エリザベス Shepard Samantha Elizabeth さん (アメリカ・ALT)  
シャオ サオモン 邵 曉猛 さん (中国・技能実習生)  
シー パン 石 盼 さん (中国・技能実習生)